

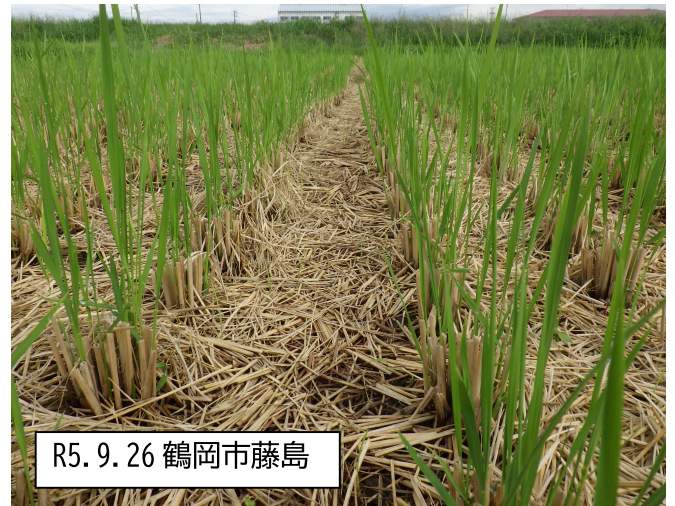
今年の稲刈りは早く終了。次年の米づくりに向けて秋から仕込み。秋耕して稲ワラの分解を進めましょう。

初期生育を確保するには、ワキにくい土壌が望ましく、秋のうちに稲ワラの分解を進めることが重要です。

今年は稲刈りが例年より早く、気温も高かったため、この時期としては「ひこばえ」がかなり大きくなっています。

例年より多い「枯れたひこばえ＝有機物」が春先になって土中にすき込まれると、ワキが激しくなるおそれがあります。

稲ワラ等の有機物が分解されるには、土に適度な水分があり、一日の平均気温が10℃以上あることが必要です。



今年は稲刈りが早く終わっています。ぜひワキ対策を兼ねて秋耕しましょう。

#### 今秋 ひこばえ 多い

	春耕	秋耕
(入水後) 土中未分解有機物	多い	少ない
ワキ発生の程度	多い	少ない
初期生育	不良	良好

耕深は5cm程度。土と稲ワラを軽く混ぜる程度。

気温が高いうちがチャンス！

ケイカルやよういん等のアルカリ資材施用で分解がさらに促進！

農道、圃場、屋敷内・・・農作業事故に十分注意！